

クロコノマチョウ

東南アジアの亜熱帯から西南日本の暖帯にかけて分布し、照葉樹林を主な生息地としています。静岡県では、本来とても珍しい種ですが、1944年加茂郡南伊豆町で初めて発見されて以来、分布を広げています。

成虫で越冬し、成虫は6～7月、8～9月、10～11月の3回にわたって羽化し、最後の世代が秋型となり越冬します。夏型は、日中森林内に潜み、緑葉上に休息していたり、樹液に来ていたりするものもありますが、日没後のたそがれ時に最もよく活動します。秋型は好んで落柿に集まり、時に家屋内にも迷い込むことがあります。

幼虫の主な食草は、ススキ、アブラススキ、ジュズダマ、アシ、マコモ、オギ、メヒシバ、チヂミザサ、トウモロコシ、チガヤ、メダケ、アシボソ等です。



富士市での現状

あまり標高の高い所では見られません。照葉樹が混じった天間の雑木林、岩本山の雑木林、北松野の照葉樹林等でよく見られます。秋には市街地でも見られます。

クロコノマチョウを確認したメッシュ

